

OG 紹介



広島大学財務・総務室契約グループ

桑原 晶子 さん

(平成20年度入学)

○仕事内容

私は広島大学の財務・総務室契約グループという部署で、主に物品を発注する契約の仕事をしています。具体的には、先生方や学生さんが使うパソコンや消耗品といった少額のものから、実験で使う大きな機械といった高額なものまで、様々なものを扱っています。先生や職員の方々から依頼をいただくので、学生と直接関わる機会は少ないですが、納品された物品が学生の研究に関わっていると思うと、学生にもつながっているのかなと考えながら仕事をしています。

○その仕事を選んだ理由や経緯

大学職員を希望したのは、人材育成に興味があったというのが一番大きな理由です。私は総合科学部で教育を専攻していたわけではありませんでしたが、教育の役割や課題について考える機会がありました。例えば、学生時代海外に行った際に、学校に行く・教育を受けるということが、国づくりに直結していたり、自己実現のためであったりと、教育の目的が人材育成であるということ強く感じました。カンボジアやケニアを訪問した時には、現地の大学生の意識の高さに驚きました。彼らの多くが大学に行くということに対して「自分たちが国をよくしていこう」という強い責任感を抱いていました。その一方で、教育によって生じる格差などの問題を知り、教育や学校について考えさせられました。歴史や環境は違いますが、人材育成はもちろん日本でも当てはまることで、地域貢献や国際交流、研究を通じて人材育成というのに興味を持って大学の事務を受けました。また、人と接したり話したりすることが好きだったので、人とかかわる仕事でしたかったというのも大きかったですね。

○仕事のやりがいや魅力

日々新しいことが多く、毎日が忙しいと言いますか、まだ余裕がないのが現状ですね。今は、目の前にある与えられたものをミスなくこなすということを意識しています。先生から依頼が来て、業者の方と契約手続きをしたりして、研究室や教室にもが届き、実際にそれを使っている先生や学生がいると思うと、仕事のやりがいを感じます。やはり、一つの契約、一つの流れが終わるとそれが基本となって大学の運営や研究に繋がっているのだと実感します。財務の仕事のほとんどが、今まで経験したことのない分野なので、毎日が勉強です。

○広大総科への進学理由

面白そうだなというのが一番ですね。パンフレットを貰って、総合科学部には、文化人類学、言語学、心理学、自然環境など、自分の知らない分野やフィールドで活躍される先生が多く在籍されていることに興味を持ちました。私は、貧困問題や環境問題を勉強したいと思っていたのですが、多角的な視点で勉強したいなという思いがあったので、総合科学部がぴったりだと思いました。また、文系理系を問わず多くの

学生がいる総科で、同級生からも多くの刺激を受けることができたので、総科を選んで良かったと思います。

○大学時代の専攻や研究内容等

私は地域文化プログラムに所属していて、ラテンアメリカ・メキシコ史研究をしていらっしゃる青木先生に卒業論文を指導していただきました。内容は、発展途上国における住民組織と彼らの運動を事例に挙げて、困難な状況から問題を解決していく住民の運動を取り上げました。在学中に訪問した国々で、貧困問題解決を目指すNGOや先住民族といった人々の草の根の運動を知ることができたのがきっかけでした。

○大学時代の部活やサークル等

一年生の頃から、えこ・ページじという環境サークルに所属していました。活動としては、大学祭でごみステーションを設置し啓発活動をしたり、環境に関するイベントや勉強会を開催したりしました。楽しいことが好きなメンバーが多かったのもあって、グリーンツーリズムを企画したり、草木染めをしたり、旬な野菜を使

った料理会をしたりもしました。また、NPO団体や他大学の学生、自治体の方々と一緒に活動することも多かったです。

在学中からは、じゃけん！農 (know) と

いう農業サークルを立ち上げました。このサークルは、地域の方々が、地域の農業の問題を学生と一緒に解決したいということで、大学からお話をいただきました。特に当初は一から始めることの大変さを実感し、悩むことが多かったですが、自分たちの農業体験を通じて、農業の問題や楽しさを他の学生にも伝えていこうと農業体験会の開催を企画するようになりました。農作物がどこでどのようにして作られるのか、農作業体験を通じて日々の消費行動を考えていけたらという思いがありました。

サークル活動では、多くのことを学べ、充実した時間を過ごすことができました。

○大学で印象に残っている事

海外に行けたことがすごく大きいですね。長い留学は行ったことがないのですが、研修やスタディツアーなどの一〜二週間のプログラムで、アジアやアフリカの国々に行きましたが、とても刺激的な時間を過ごすことが出来ました。

○大学で学んだことや培った能力が社会でどう生かされるか

学生だけではなくて先生や地域の方、留学生など、多くの人々と接する機会に恵まれていたので、人見知りもせずコミュニケーションをとれるようになったかなと思います。やはり大学に入ると、中学・高校よりもいろいろな人と会う機会があって、自分も動ける範囲がきっと広がると思います。そういったところで勉強でもサークルでも、ボランティアでも旅行や趣味でも、なんでもいいので、世界を広げると得られるものはあると思います。

○将来の目標

今は仕事の面だとやはり、仕事をミスなくこなすというところです。様々な契約案件を経験し、先生や学生の教育研究活動がスムーズに行われるように、手続きをすすめていきたいです。もうすぐ一年経ちますが、これからは周りをつかり見て、与えられたものだけでなく、自分でしっかりと状況を把握して率先してできるように、成長していきたいです。財務の仕事の流れや役割をしっかりと理解し、二年

目に向けて頑張っていきたいです。

また、学生の頃からなんですが、自分の中で現場を知ることと考えていました。自分の言葉で表現し、伝えることができるので、やはり自分が実際に見たり体験したりすることが大切だなと思うからです。そのためにも、自分の仕事に関わるシンポジウムや研修に参加したり、地域に出て活動することを持続していきたいなと思います。広島大学が何をやっているのか、学生がどんな活躍をしているのかということに、常にアンテナを張っていきたいと思っています。

○人生に影響を与えた人や言葉

在学中、先生や家族、友人など多くの方々から言われた言葉で、「批判的に物事を見る」というものがあります。これは今でも私にとつての課題なんですが、卒業論文の執筆やサークルなどの活動で、この課題の克服の重要性を感じました。私は物事をありのまま捉えて、それを自分のものさしで測ってしまう傾向がありません。けれど、それでは物事の裏で起こっていることが見え、大事な本質のようなものを見逃してしまうことになります。様々な角度から今ある状況を考えることで、問題意識を持って、

行動に移していけたらと思います。これはなかなか簡単なことではないと思いますが、例えば、

ことを吸収して活躍してほしいなと思います。

本からの知識や、実体験、人々との交流などによつて培われるのではないかと思うので、これからのいろいろな経験を積んでいきたいと思っています。

また、影響を与えられたという訳ではないですが、家族であったり友人であったり先生であったり、周りの人たちにとても恵まれていました。だから、誰かがという訳じゃないですが、応援してくれている方がいることに大変感謝しています。

○総科生へ一言

社会人になって一年も経っていなくて、社会人と学生の違いがはっきり分かったわけではないですけど、一番違うなと思うのは時間があることですね。好きなことややりたいことを見つけて思いっきりやって欲しいです。また総科の先生はとてもフレンドリーで、今でもプログラムや研究室の食事会や飲み会に誘ってくたさるのですが、世代を超えた交流を通じて、いろいろな話を聞いて下さい。もちろん友達からいろいろな話を聞いて下さい。総合大学であらゆる分野の学部の人がいるから、総科にとどまらず、たくさん

【担当】

24生 上野 裕介
24生 岡添 りえ
24生 江 永如